

■ 観天望 (編集委員会から)

編集委員長 石垣 (20期)

12月に発行するOB会報は、OB総会報告やOB会員近況報告などを掲載するため、いつもよりもページ数が多いのですが、本号は更に自由投稿を7稿もいただきましたので、32ページという厚い、熱いOB会報になりました。ご投稿をいただきましたOB会員の皆様や原稿を作成いただいた役員の皆様に厚く御礼申し上げます。編集委員会が掲げた今年度のテーマである「会報が本会与会員の架け橋に！」に近づいたかな、と勝手に都合の良い解釈をしています。

さて、今回は編集委員の職業病(?)について少し述べたいと思います。コトバを見るとつい悩んでしまいます。OB会報を発行する際、原稿の校正を行っていますが、原文を尊重しますので修正するのは明らかな間違いだけにしています。しかし、何が「明らかな間違い」かを判断するのが困ります、そして、悩みます。例えば、こんなことがありました。

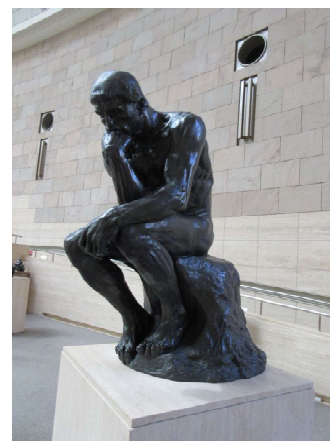
本号のP13にあるOB山行予定で「千頭星山」があります。この読み方が「せんとうぼしやま」か「せんずぼしやま」かで悩みました。インターネットで検索すると「せんとう・・・」と書いてあるページが圧倒的に多く見つかりました。「よし、これだ!」と思った後に、この名前由来のページが見つかり「山名の起りからいうと本来は「センズボシ」と読むのが正しいと推定される。千頭(せんず)とは、サル、シカ、イノシシなどの多獵地を意味する・・・」などと書かれています。「えー、どちらにしよう」山を熟知する方にとっては簡単に答を出せることも、筆者にとっては結論まで長い道のりです。そう言えば、有名な白馬岳も同じようなことがあったなあと思い出しました。

白馬岳の名は信州側山麓地帯で苗代時に馬の形をした残雪模様、いわゆる雪形が見えることに由来している。本来は代馬と書くべきだが、白馬の美しいイメージが好まれ、この当て字が定着したようだ。従い、シロウマと読むのが正しいのだが、村名・駅名なども公式にハクバとなったために山名もハクバ岳と読むようになったようだ。

などと、こんなことまで思っていると、数時間があっという間に過ぎてしまいました。この「千頭星山」の読みだけでこんなに時間を使って悩むなど、もう明らかな病気です。もし、筆者がボーッしているのを見かけたら、また何かのコトバで立ち往生していると思って、そっとしておいてください。

実は、前号の「みはるかす」の話の続きを本号に書く予定でしたが、この「職業病」のため、次号以降に先送りしてしまいました。でも、病気なので責めないでくださいね。お願いします。

本年も多くの方々のお力で、無事OB会報を3号発行することができました。本当にありがとうございます。皆様にとって来年も良き年でありますようお祈り申し上げます。



静岡県立美術館にて
2018年3月 筆者撮影